

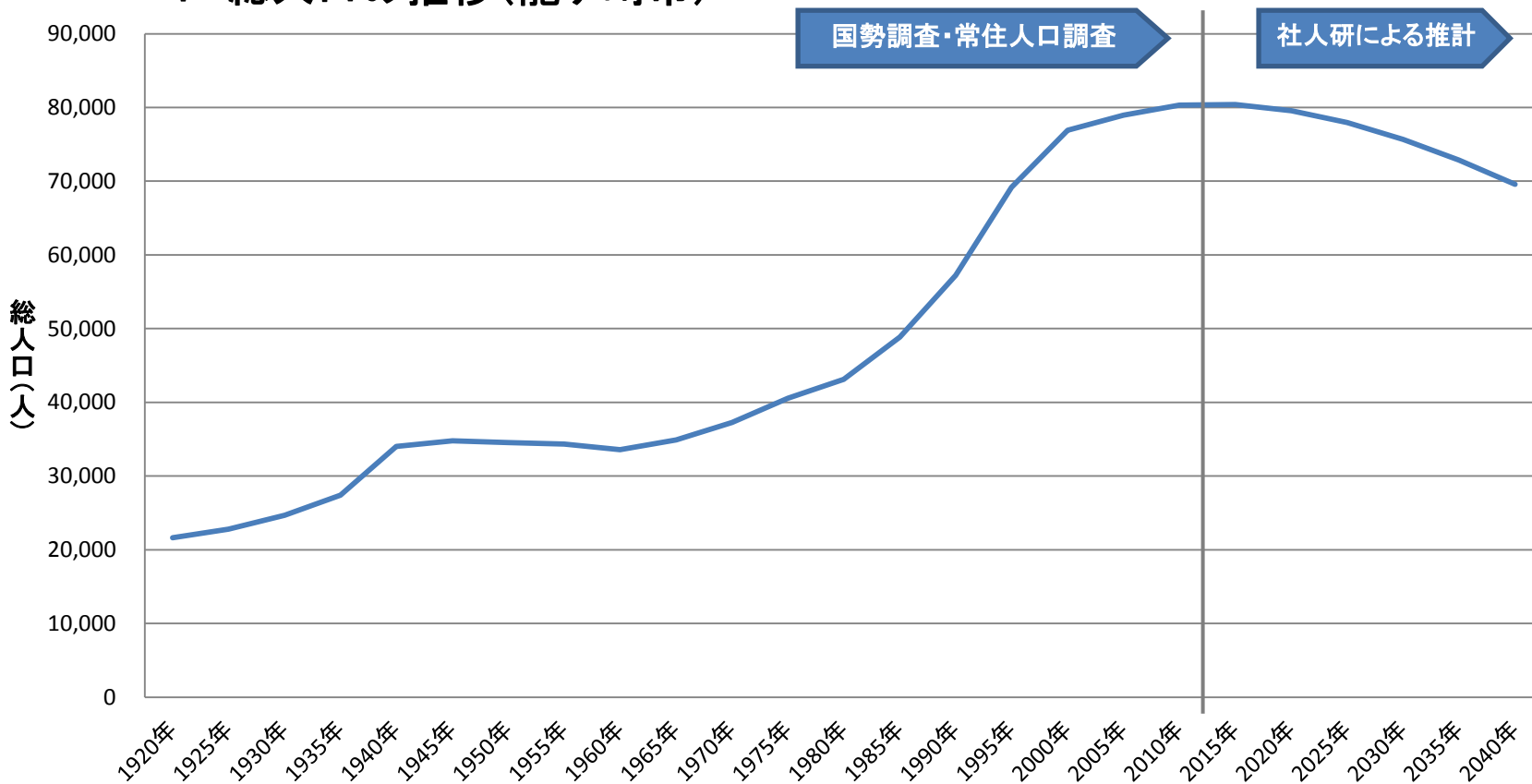
龍ヶ崎市 人口動向分析・将来人口推計

人口ビジョン・総合戦略策定
基礎資料(素案)

1. 龍ヶ崎市の総人口推移

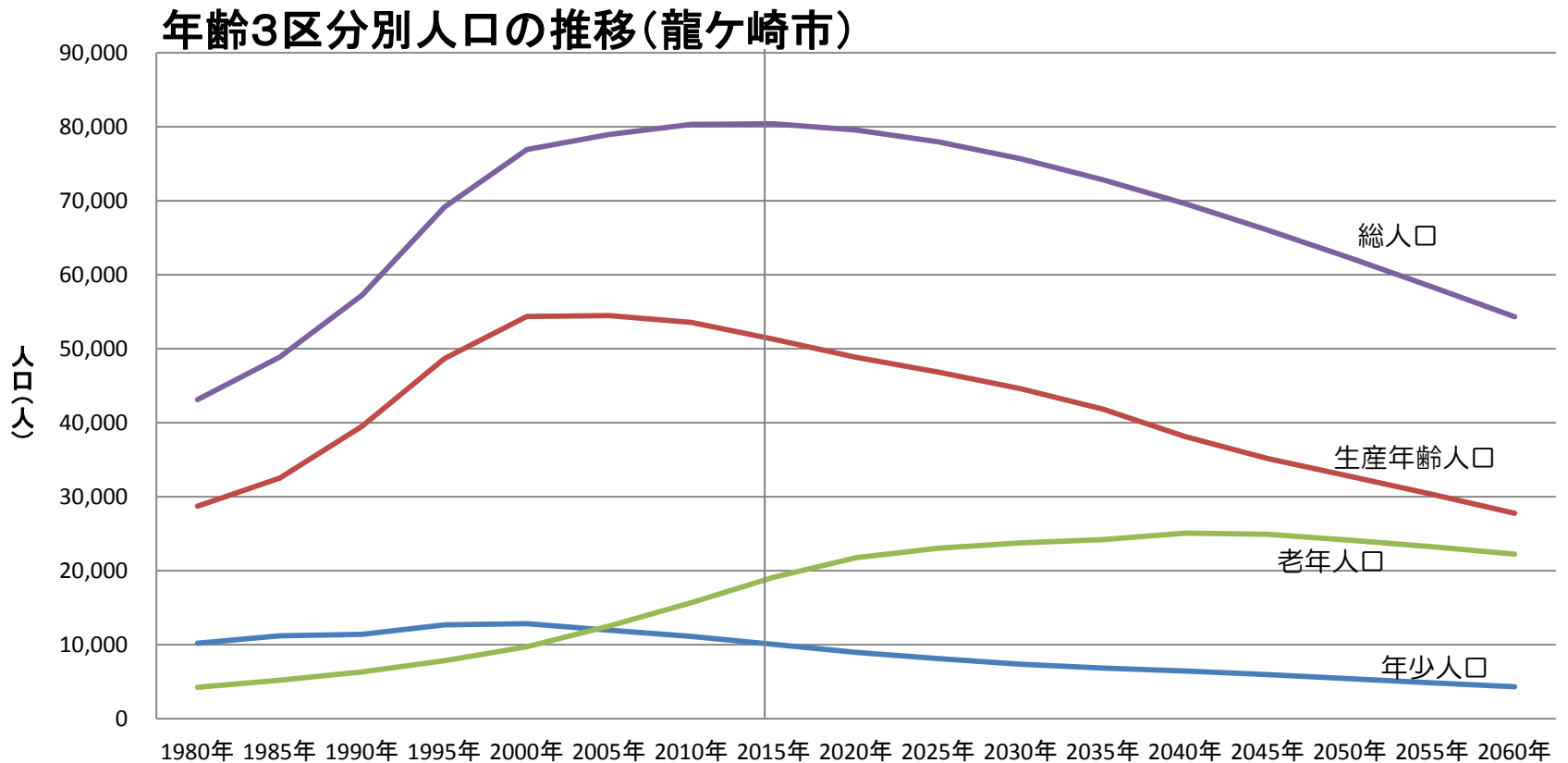
- ▶ 本市は、日本の高度経済成長などに支えられつつ、昭和50年代後半からのニュータウン開発などにより順調に人口は増加してきた。平成7年には人口増加率において全国第2位を記録。
- ▶ しかし、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）の推計によると、2015（平成27）年をピークに減少に転じ、2040（平成52）年には7万人を下回るとされている。

1 総人口の推移(龍ヶ崎市)



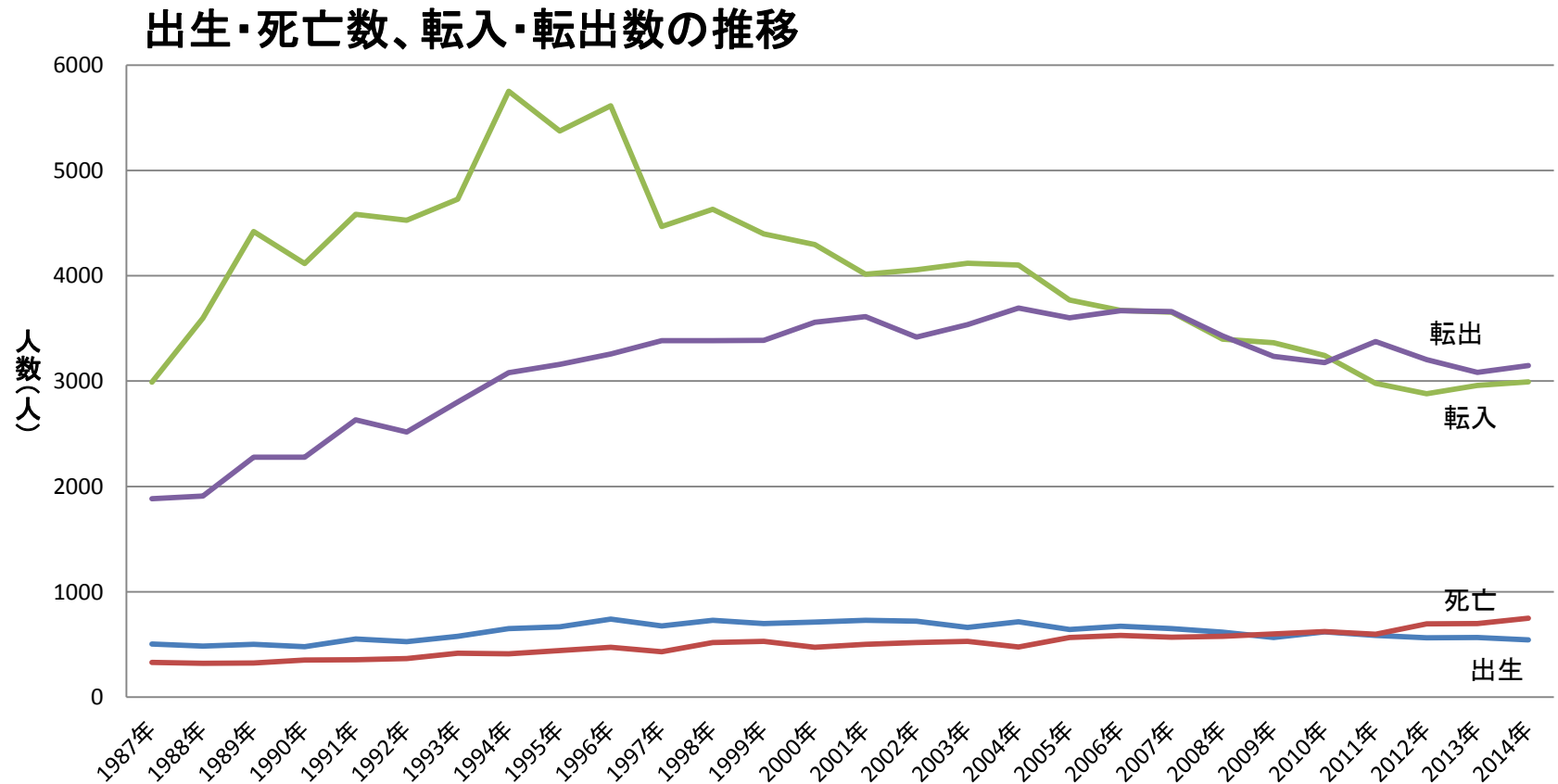
2. 年齢3区分別人口の推移

- ▶生産人口年齢及び年少人口については、すでに減少に転じている。
- ▶老年人口については、一貫して増加しており、2005（平成17）年頃を境に年少人口と逆転している。



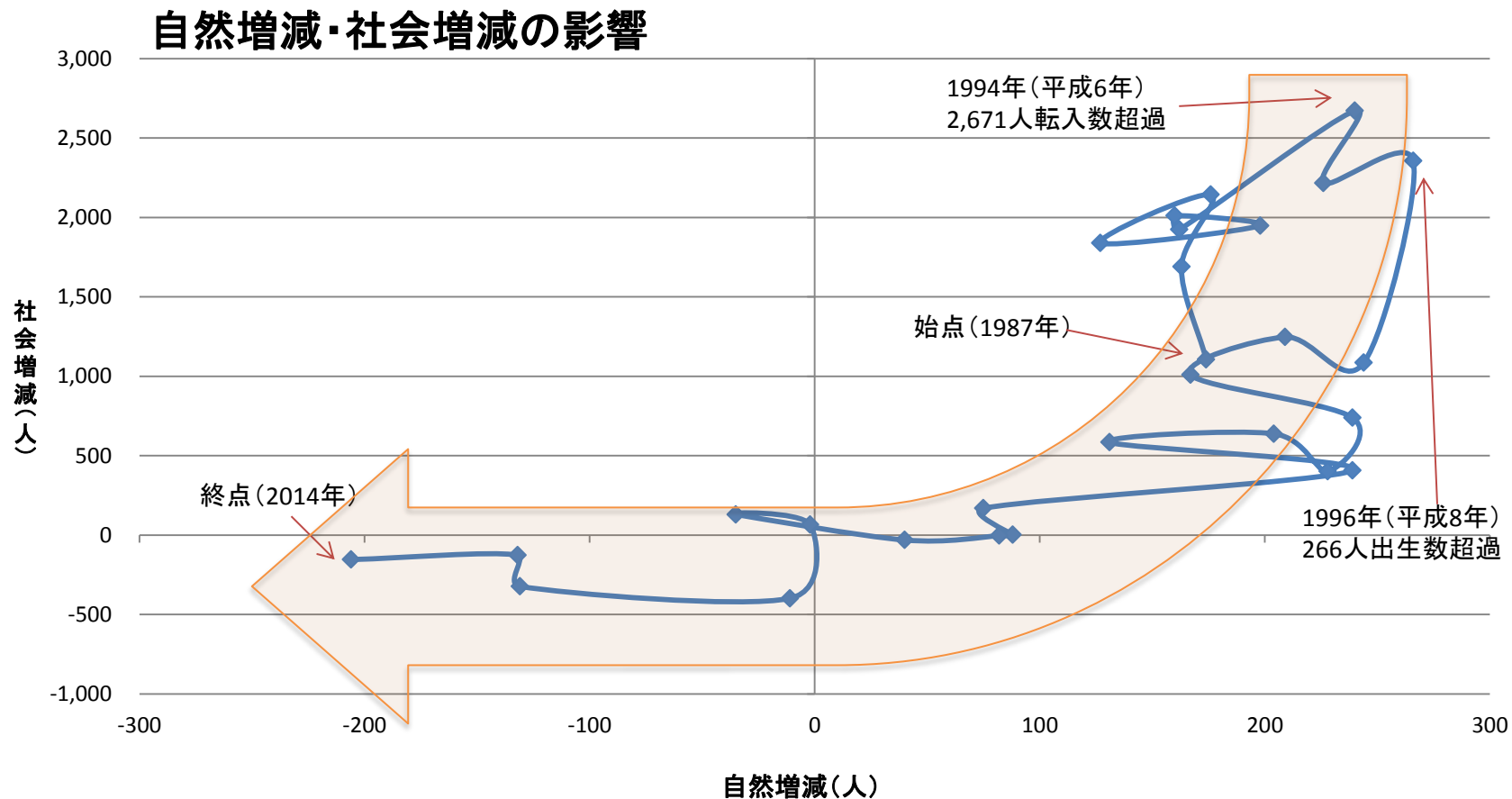
3. 出生・死亡、転入・転出の推移

- ▶出生数が死亡数を上回っていたが、2009（平成21）年頃を境に逆転する。
- ▶1990年代には、転入が転出を大きく上回っていたが、2000年代前半にはその差が年々縮小し、現在は逆転している。



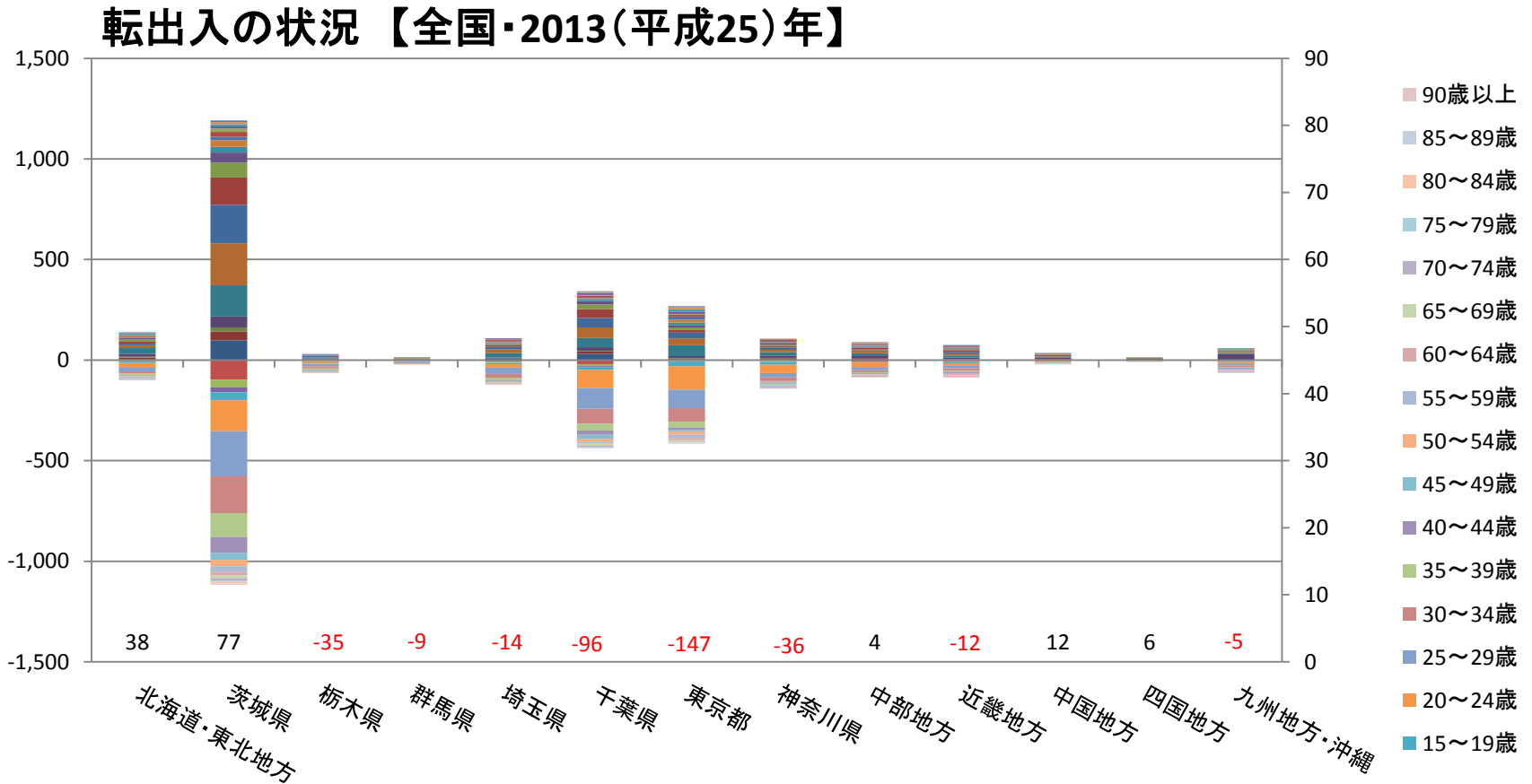
4. 総人口に影響を与えている自然増減・社会増減の推移

- ▶2006（平成18）年までは、自然増・社会増が継続しており人口は増加傾向にあった。
- ▶近年では、転出超過による社会減への転換や出生減・死亡増による自然減への転換により、人口減少段階に入ってきた。特に、ここ数年の自然減への移行は顕著である。



5. 地域ブロック別の人口移動の状況

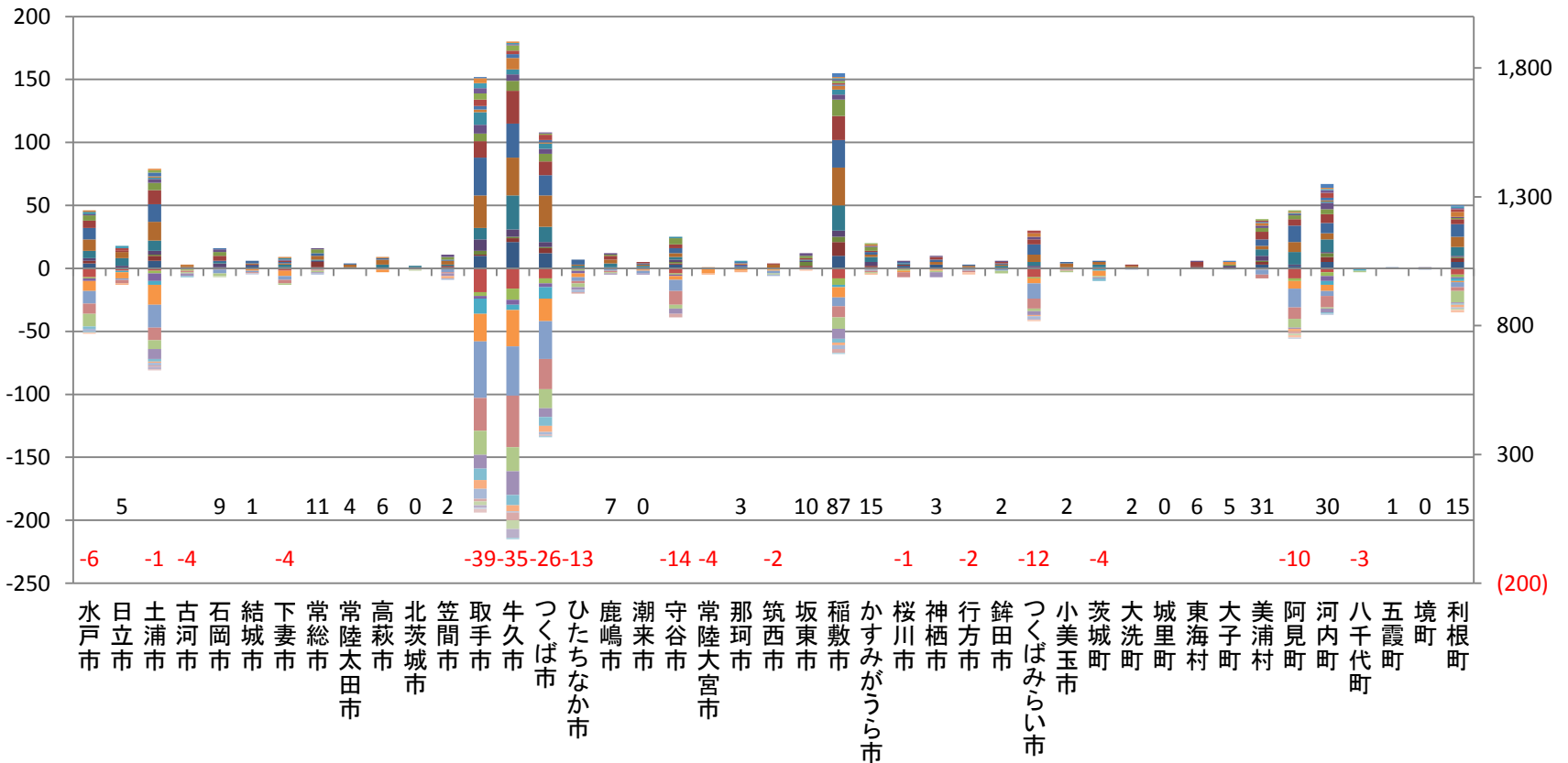
- ▶移動の大半は県内であるが、千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県の順に多くなっている。
- ▶県内からは転入超過であるが、その他の関東各県対しては転出超過であり、特に東京都、千葉県への転出超過が特出している。



6. 県内自治体間の人口移動の状況

- ▶牛久市、取手市、つくば市などに対しては転出超過であり、一方稲敷市や河内町、美浦村などは転入超過となっている。
- ▶特に稲敷市からの転入超過は顕著であるが、転出については常磐線の主要駅がある都市やTX沿線部への流出が目立つ。

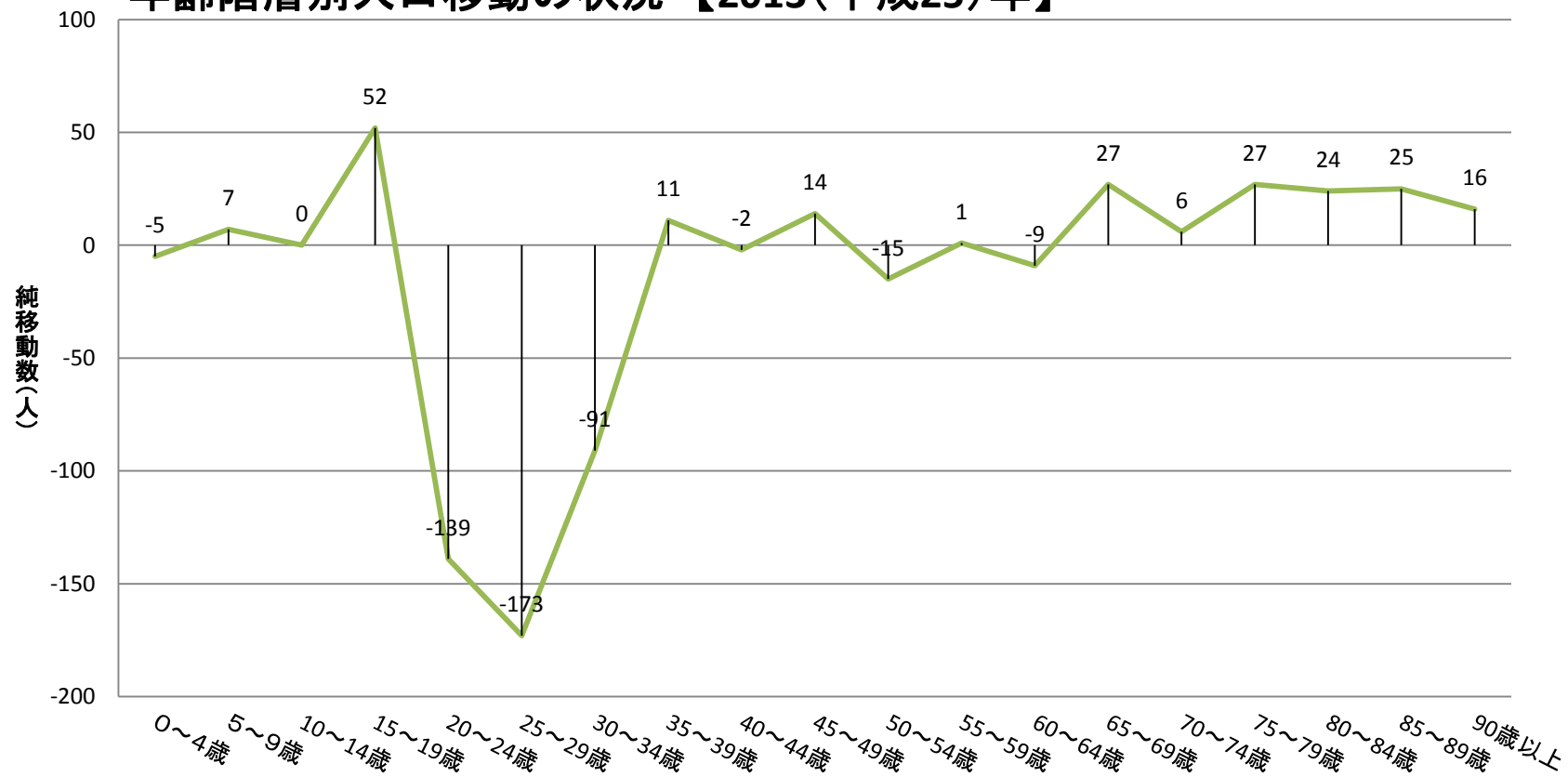
転出入の状況【県内・2013(平成25)年】



7. 年齢階層別人口の移動状況

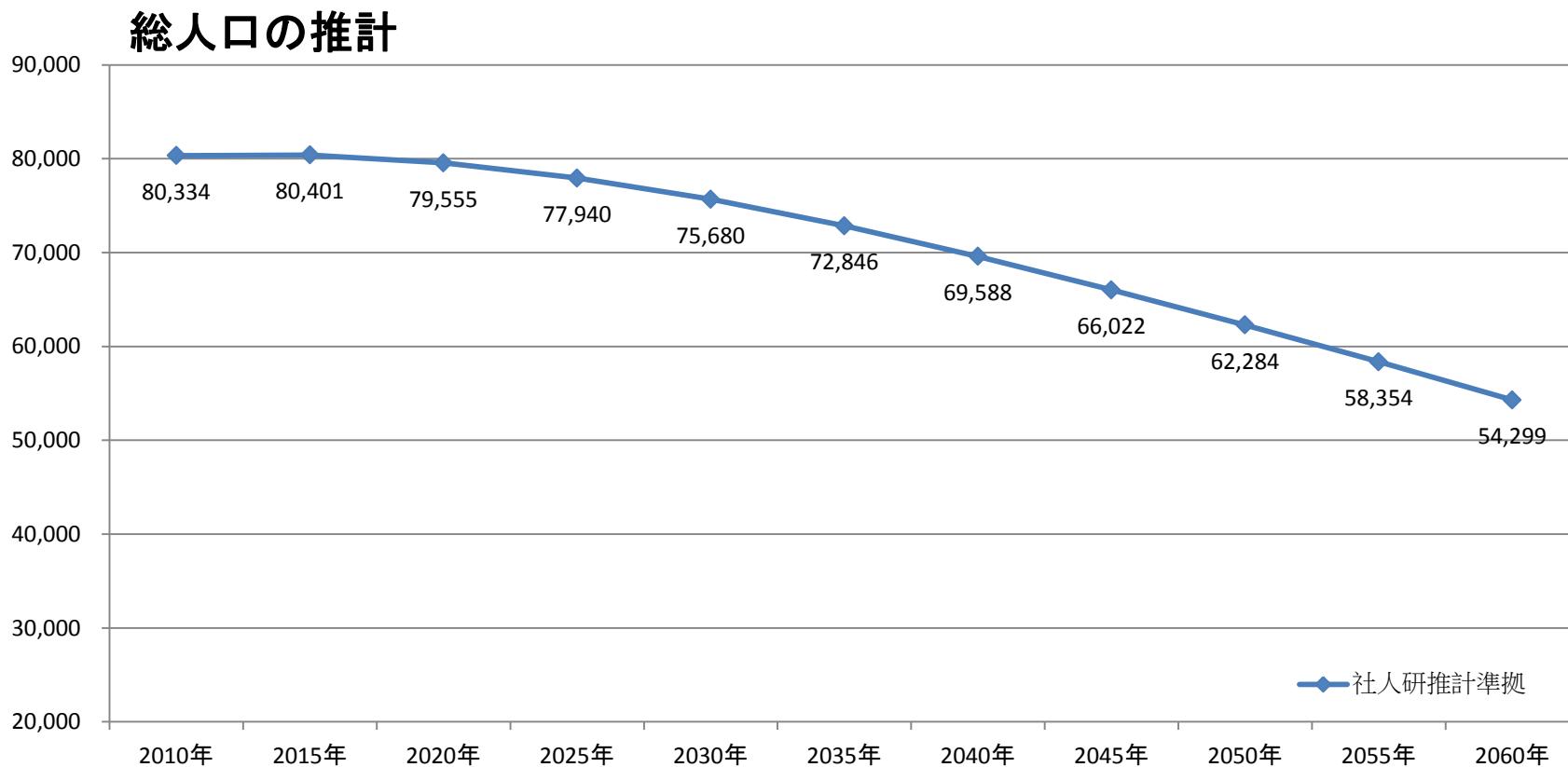
- ▶ 20～40歳までは転出超過となっており、65歳以上については転入超過となっている。

年齢階層別人口移動の状況 【2013(平成25)年】



8. 社人研推計に準拠した総人口の推計

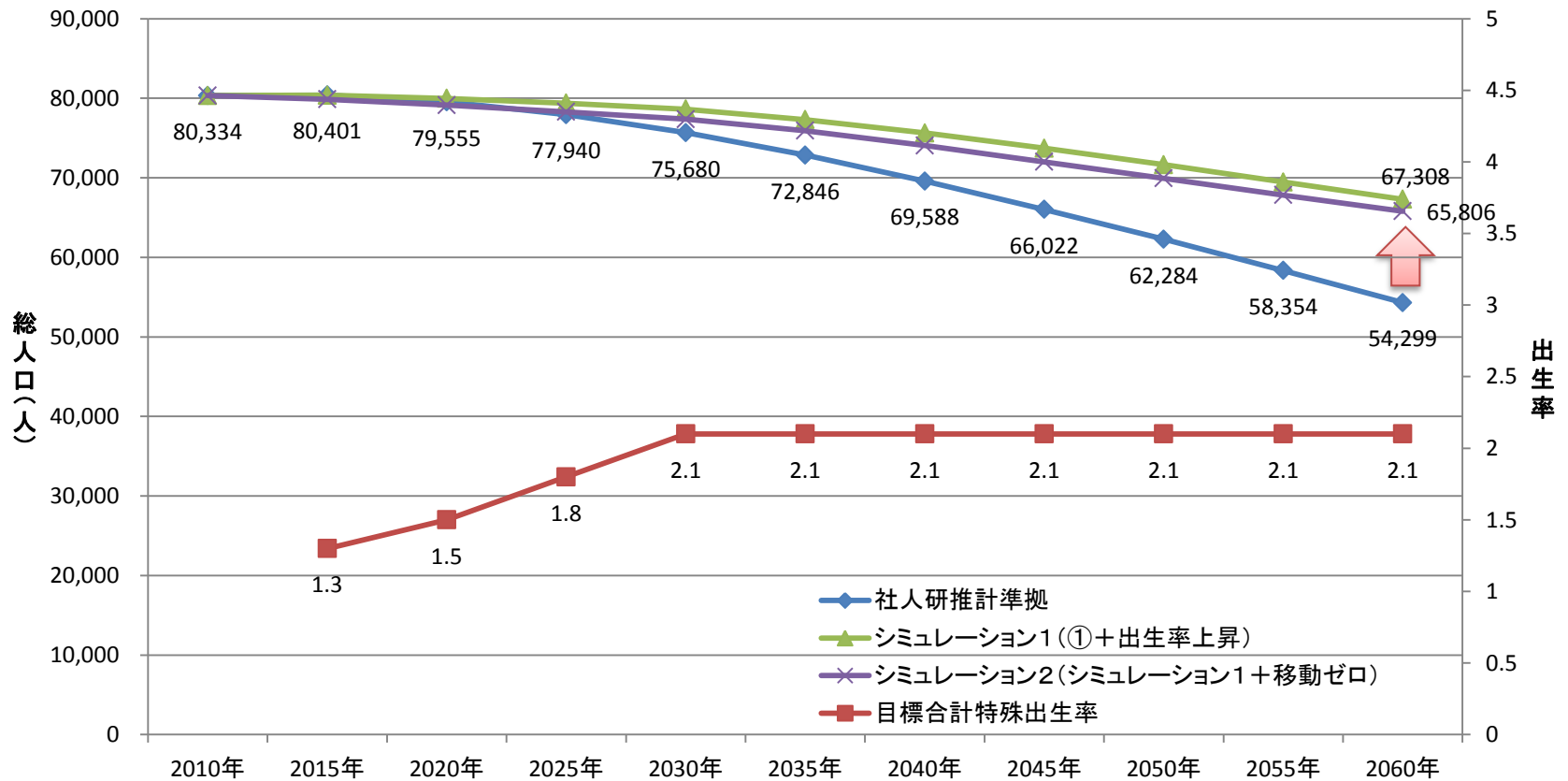
- ▶2015（平成27）年の80,401人をピークに減少に転じ、2060（平成72）年には54,000人程度に減少すると推計している
- ▶しかし、人口はすでに8万人を割り込んでおり、社人研の推計以上に人口減少は進行している。



9. 総人口の推計（シミュレーション）

▶シミュレーション1（社人研推計+出生率上昇）では、2060（平成72）年に67,308人、シミュレーション2（シミュレーション1+移動率ゼロ）では65,806人と推計される。

目標とする合計特殊出生率と総人口の推計



10. 総人口の推計シミュレーションに基づく 自然増減及び社会増減の影響度分析

▶本市の人口推計に基づく、自然増減の影響度は「3」、社会増減の影響度は「1」となり、社会増減より自然増減の影響度が高いと分析できる。

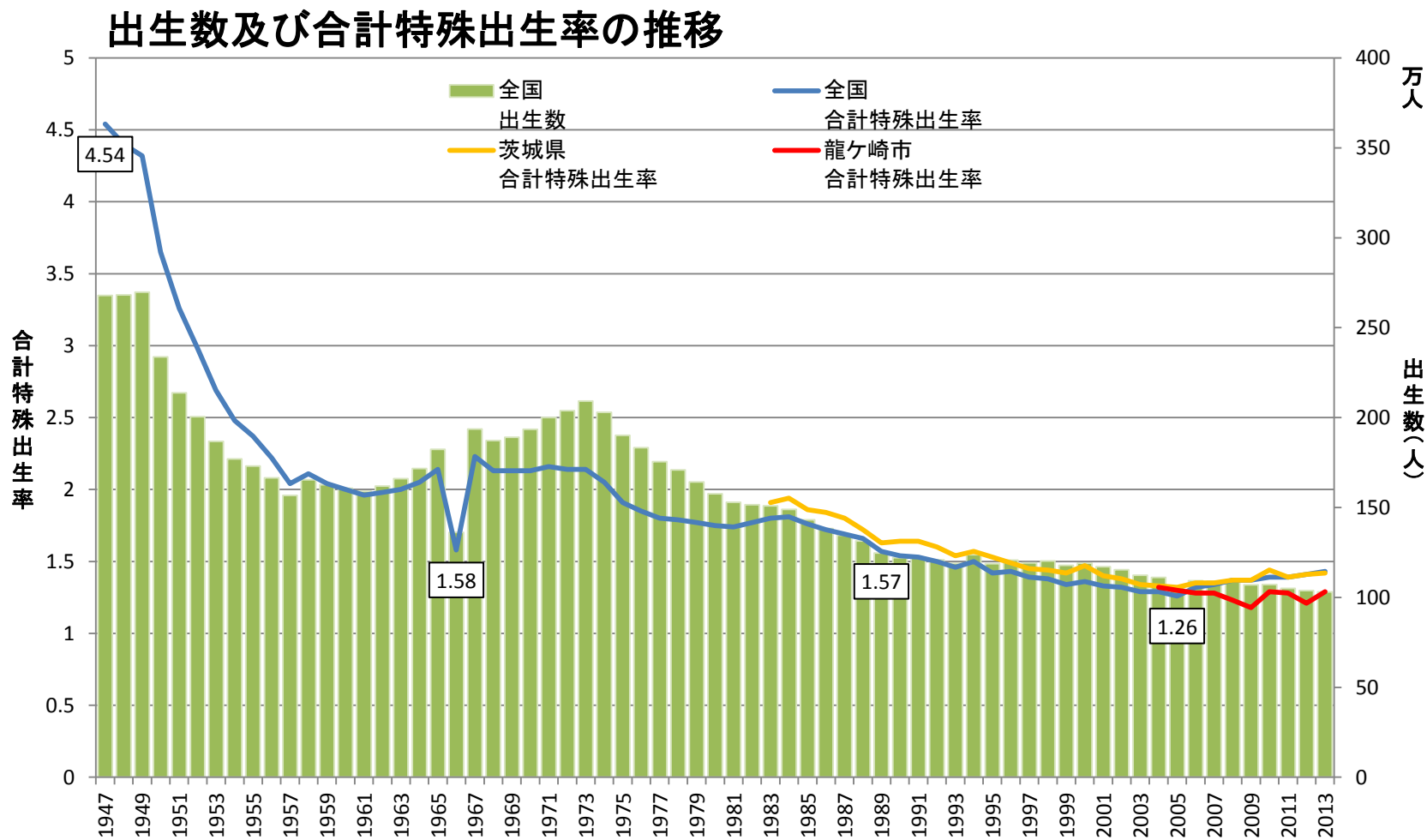
	試算	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1 ※社人研推計+出生率上昇 2040(平成52)年推計人口 75,644人…① 社人研推計準拠 2040(平成52)年推計人口 69,588人…② ①/② = 108.70%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2 ※シミュレーション1+移動率ゼロ 2040(平成52)年推計人口 74,065人…③ シミュレーション1 ※社人研推計+出生率上昇 2040(平成52)年推計人口 75,644人…④ ③/④ = 97.91%	1

【影響度の分類】

自然増減の影響度 : 「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、「4」=110~115%、「5」=115%以上

社会増減の影響度 : 「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、「4」=120~130%、「5」=130%以上

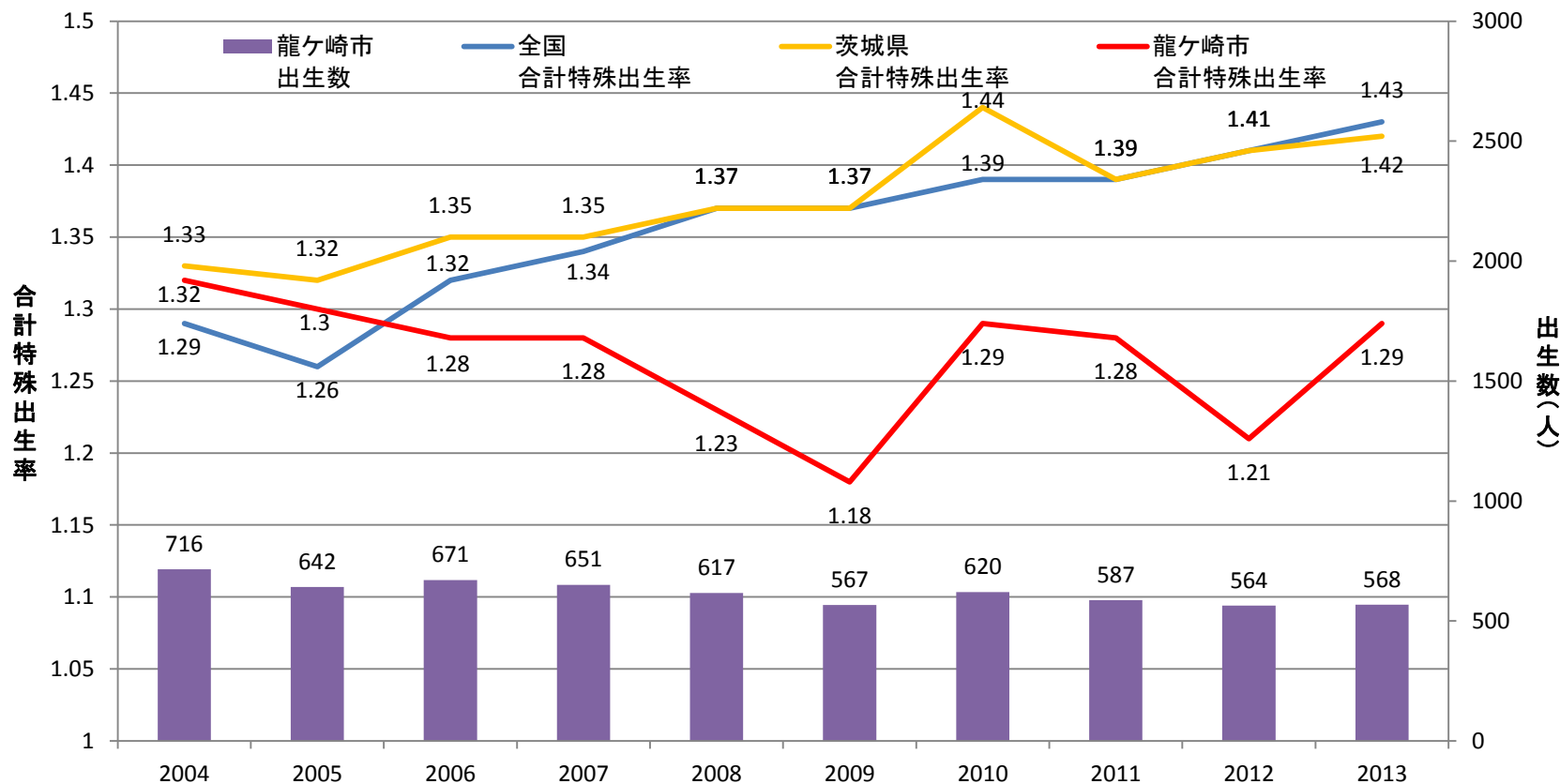
11-1. 出生数及び合計特殊出生率の推移



11-2. 出生数及び合計特殊出生率の推移 (2004年～)

- ▶出生数は年間600人前後で推移しているが、合計特殊出生率では2005（平成17）年以降全国平均を下回っている。
- ▶合計特殊出生率は、2005年以降、国・県は上昇傾向であるが、本市ではバラつきはあるものの横ばいの状況である。

出生数及び合計特殊出生率の推移



【参考】人口減少段階の分析

- ▶本市の人口はマイナストレンドに移行したと思われ、第1段階に突入したと考えれる。
- ▶人口推計に基づく分析では、2040（平成52）年頃を境に第2段階に移行し、2050（平成62）年頃には第3段階を迎える。

